

シーン2 公衆トイレで…

「デリヘルアプリでご指名いただきました、鷹梨燐です…」

「あ、アナタねえ！？ こ、こんな不潔なところに呼び出すなんて、私をどこまで辱めれば気が済むの!？」

「公園のトイレだなんて…不衛生な…私に、こんなところで何を…あ、ああ、また!？」

「今回のコースの内容の説明をさせていただきます…くっ、こんなところ今すぐにも出ていきたい…」

「通常コースの他、口での奉仕、アナルでのプレイの希望、オプションとして、潔癖症反転のご注文を……け、潔癖症反転!？ え、え!？ ま、まさかっ…っ!？ よくも、ここまで下衆な考えが、できて…!？」

「きゃっ!？ な、何出してるのよ!？ …ううっ、たしかに、デリヘルで呼ばれてるからには、行為としてするのは、当然んだけど…くっ、こんなものを…そんなものが、美味しそうに見えるわけないでしょう!？」

「こんな臭い場所で、不潔なもの……くっ、口で!？ お、おちんちんを口で、え、ええ!？ 何を言って……わ、わかるわよ……っく、こんな不潔な行為まで私の頭の中に書き込んでるなんて……」

「洗脳のせいで、言うことを聞くしかないんだから…こんなこと、すぐにでも終わらせて…ふあっ、なんて匂いっ…こんなにおっきいのお口でなんて…」

「はあっ、はあ…ちゅっ…く、臭い…こんなの不潔よ…ちゅっ、ちゅっぶっ、ちゅ  
うっ…んっ、はあ、はあ、はあ…こんな下品なこと、私が…してるなんて…ちゅっ、ちゅ  
るちゅっ、ちゅっぶっ…」

「ちゅっ、ちゅっ、ちゅぶちゅっ、んっ…はあ、はあ、はあ…くっ、トイレの匂いと、ア  
ナタのおちんちんの匂いですっど臭い、まま…はあ、はあ、はあ…こんなところに、ずっ  
どいたら…頭おかしくなりそう…ちゅっ、ちゅっぶっ…」

「ぶじゅっ、ぐぶっ、んっ、ちゅぽっ、んっ、んうっ…ちゅっ、ちゅぽっ、ちゅっぽっ、  
んっ…はあ、はあ、はあ…匂いがキツくて…クラクラしてきた…ふう、ふうー…ちゅっ、  
ちゅうっ…んちゅっ…ちゅっちゅっ、ちゅぶっ、ちゅるろっ、んっ、ちゅぽっ、ちゅぽ  
ちゅっ、んっ、ちゅっぽ、ちゅぽっ」

「美味しいわけ無いでしょっ…お、おちんちんを舌で舐めるなんてこんな不潔なことっ  
…れろっ、んちゅっ…こんなあそこに入れてたなんて、不潔よ、不潔っ」

「…はあ！？ 全然出せそうにないって…アナタね…くっ、もっと刺激を、与えればいい  
のよね？」

「…くっっ…なんで私が、こんなこと…はぁ、ふう…ふう…」

「本気で、シてあげるから…覚悟、しておきなさい…ちゅっ、ちゅっぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽっ」

「んっ、ちゅぽちゅぽっ、ちゅっぽっ、じゅるっ、じゅぶじゅるっ、んっ！ じゅっぽっ、じゅぽっ」

「んっ…んんっ…んぐっ…ん、んーっ!？」

「んじゅっ! じゅぽじゅっ! じゅぽぽっ! んっ! んんうっ! じゅりゅりゅるっ、じゅぶじゅっ!」

「じゅぽぽっ! じゅぽっ! んっ! んんう! っ♡ んんんんんっ!-!-!♡」

「んぐっ…うぐっ…ぷはっ! はぁ、はぁ、はぁ…♡ んっ、口の中、精液でいっぱい…くっ…うっ…の、飲むの!?! うう、こんなくっささいの」

「んぐっ、ぐっくっ、ぐくっ、ぐくっ…ぐっくんっ…んぁ♡ はぁ、はぁ、はぁ…あぁ…臭いのが…鼻から抜けて…んっ♡ はぁ、はぁ、はぁ…」

「…え? 精液を口の中に溜めて見せてほしかった、って…ホント変態ね、アナタ…」

「…はぁ、はぁ…ふう…♡ それに、しても…んっ♡ 喉の奥までせーしの匂いでいっぱい

…よろこんでなんかっ…全部アンタたちの洗脳のせいよっ…」

「はあはあ、ふう、ふう…なんで、私…こんなに、体が熱くなってるの…はあ、はあ、はあ…くっ…」

「うう、全然萎えてない…固くて反り立ってて…わ、わかってるわよ」

「コンドームを付けてあげるから、すぐに終わらせてよね…っ!？」

「ああっ…やっぱり、忘れてなかったのね…くっ!」

「なんでお尻の穴なんかに、おちんちんを入れたいのよ!? おかしいでしょ!? この

…変態っ! 不潔! ありえないっ! なのに、想像するだけで…っくう」

「…ああ…本当に、不潔…こんなこと、絶対、したくないのに…洗脳のせいで、何も逆らえない…なんで、さっき射精したのに…またこんなに大きくなってるの…? はあ、ふう

…本当に下劣な…っ!」

「こんなトイレでお尻突き出して…っ、不潔な行為ねだってるみたい…んひゃ!? な、舐めるな!? んあっ、そ、そんな…んっ…はあ、はあ…ひっ…あっ、当たっ  
て、るうっ…い、いれるの!?! お尻のっ、穴なんかっ…そんなもの…っ!」

「ああっ! あうっ! は、入ってっ、来ないでえっ! んんんんうっ!」

「かっはっ! あっ、あうっ…うっぐっ…んうっ、はあはあ、はあはあ、んっ、ぬ、抜い  
てっ…こんなのっ、入れるところじゃ、ないっ…からあっ! んんんっ!」

「あっ！ あうっ！ 熱いつ、いっぎっ！ んっ！ んんうっ！♡ はあはあ、はあはあ  
…あっ！ あああっ！♡ ダメっ、ゆっくりっ、動かさないでっ…くっ、んんんっ！♡」

「はあはあ、はあはあ、うっぐっ、ううっ…うっ、んっ！ んっ、あっ♡ お腹の中っ、  
かき回されてっ…ひぎっ♡ いいっ！♡ はあはあ、はあはあ…くっ、んうっ！」

「なん、でえ？ …はあはあ、はあはあ、くっ…んんっ、んあっ！ ああっ！…！♡」

「気持ち悪いのにつ…ひぎっ♡ 不潔なのにつ…うっぐっ♡ こんな、あり、えません  
んんっ！♡ あっ♡ あうっ♡ あっ♡ あああっ！♡ 体がつ、勝手にっ、感じてっ…  
んんっ！♡ あっ、あうっ♡ あっ、あんっ！♡ ああっ！ うっぐっ、んんんんううあ  
ああっ！…！♡」

「ううああああ！…♡ あっ♡ あうっ！♡ んぐうっ！ いっ、嫌あっ！♡」

「それっ♡ ダメっ♡ ダメですっ♡ お尻の奥っ、奥からっ、一気に、ひうっ♡ 抜き  
差しするとっ♡ んっ！ んんんうっ！♡ あっ、あああああっ！ あっ！ あっ！ あ  
っ！ あうっ！」

「んっぐっ！♡ んおっ♡ んおおんっ！♡ はあはあ、はあはあ、あっ！ あああっ！  
♡ こん、なのっ…知らないっ、知らないっ！♡ 体っ♡ おかしくなってるうっ…ん  
んあっ！」

「お尻でっ、なんでっ、こんな、気持ちよくなってるの!? おかしいっ、おかしいよ  
お!♡ おっぐっ!♡ んんっ! んうっ!♡ んぐあっ!♡ あっ! ああうっ! ん  
うあっ!」

「…はあ!? アナル、オナニー、なんてっ…んっぐっ♡ するわけ、ないっ、じゃない  
っ…んんあっ!♡ これはっ、アナタがっ、私の体っ、おかしくしたから…ひぎっ!♡  
んんあっ!♡」

「お尻でっ、感じるなんてっ…絶対おかしいっ…ありえませんっ…んっ!♡ ありえない、  
のにいいいいっ!!!♡♡」

「あっ! ああああっ!♡ お尻で、不潔なトイレで犯されてるって考えるだけで…:…な  
んで気持ちいいって、んおお! おっ、おうっ!♡ んおうっ!♡ おおんっ!♡」

「ひっ♡ うううっ!♡ ああっ! あっ! あああっ!♡」

「んぐお!♡ ああっ! ん おおおおおおおおおっつ!!!♡♡♡」

「はあっ、はあっ、はあっ…:んっ、ああ…:♡」

「熱いせーしいっぱいかかてるう…:…私の体、汚い精液で汚されて…:不潔…:不潔、なのに  
…:はあ、はあ、はあ…:おちんぼ…:…:はあ、はあ、すっごい精子の匂い…:…:こんな、こんな  
…:…:き、綺麗に…:…:うう、逆らえないの、これは逆らえないからしかたないの」

「お、美味しそうなんて思っているわけ」

「はあ、はあ、はあ…匂いだけでお口が犯されそう…っちゅ…レロっ…んちゅっ、ちゅっぶっ、んっ♡ ちゅっぼっ、じゅぼっ!♡ ちゅぶっ、ちゅぶりゅっ」

「ちゅるるっ、ちゅっぽんっ!…んっ…んあ…♡ はあ、はお…♡ ごっくんっ…♡」

「ああ…♡ はあ、はあ、はあ、はあ…ああ…全部舐め取っちゃった…こんなに臭いの…」

「ひっ!?!」

「…ちよ、ちよっと…誰か、入ってきた…静かにして、やり過ぎさないと…くっ」

「なんで、私がこんなこと…ちよっ!?! アナタ、何を…やめっ、くっ…んんっ! んう

ううううううっ♡♡♡ あっ…♡ あうっ♡ くっ…んんっ♡ はあはあ、はあはあ

「はあ、はあ、はあ…あ、アナタ…自分が、何をしてるか、分かって…んんっ♡ うっぐ

っ♡ んんっ♡ …んんっ♡ んんぐっ♡ んんっ♡ やめっ、やめてっ…くっ、んうっ♡」

「音を出したら、バレる、からっ…ひっ♡ んんっ…♡ んうっ、んんううっ♡♡ くっ

♡ ううっ…♡ はっ、はやくう…♡ 行って…行って…行ってよお…♡」

「あっ…ああっ♡ あっ♡ あうんっ!♡ ああっ!♡ アナタって人はっ!」

「わ、私がつ、どれだけっ! ひぐっ♡ んんっ!♡ んんううううっ!?!♡♡」

「あぁっ！♡ 無理いっ！♡ 無理いっ！♡ 声っ、出ちゃうからぁっ！♡ こんなのっ、我慢できるわけ、ないいっ…んっぐうっ♡ っんおっ！♡ おおんっ！♡」

「ぁっ！♡ あぁっ！♡ あうっ！ んんんんううっ！…！♡」

「おかしいっ！ 絶対っ、ありえない、のにいっ！♡ 気持ちいいのがっ、止まらっ、ないいっ！♡ あぁっ！♡ ダメっ、ダメっ、ダメえっ！♡♡ 気持ち良すぎてっ♡ もうっ♡ 無理っ♡ 無理いっ！♡」

「あんっ！♡ あうっ♡ っんっ！ っんうっ！♡ んっ！ んんあぁっ！…！♡♡」

「はあはあ、…ひうっ♡ もうっ嫌あぁっ！ おかしく、なるうっ…んんんあぁっ！♡」

「あっ！♡ ぁあぁぁっ！♡ んあぁぁっ！♡ イっちやうううっっ！…！♡♡♡」

「うっぐっ♡ んっ…はぁっ、はぁっ、はぁっ、…んお♡…ううっ…♡」

「はあ、はあ…外もう居なくなってる…んあ♡…何度も出してるのにこんなに…熱くてたぶたぶのゴム、こんな不潔なもの、あぁ♡」

「どろどろで、とっても臭くって…はぁぷっ…んっ♡ 舌に乗るぐらいプリプリで濃いちゅっぐっ…ちゅぶっ、ちゅぽっ…んうっ♡ ちゅっ、ちゅるるっ」

「はあはあ、はあはあ、はあ…はぁあ♡ おちんぼの奥に残ってるのも全部キレイに…」



「…え？ 自分から、オチンポを綺麗にし始めたって…だって、変態のアナタなら絶対言ってくるでしょ？」

「命令されるのが分かりきってるんだから…どっちでも変わらないわ…」

「コンドームにタップタップに入ってるも…はあはあ、じゅる、ん、んっ…ほあ…見なさ  
い…♡ これで、いいんでしょう？」

「…臭いわよ、とつても…せーし臭くて、不潔で下品で…こんな変態みたいなことしてる  
のに…わたし、わたし…ああ、飲むの？ 飲んじゃっていいの？」

「こんなに、臭い、精子…お腹に入れちゃったら…んっ、ごくっ、ごくんっ！ …けっぷ  
っ♡」

「はあ、はあ、ふあ…♡ 喉の、奥、までえ…♡ 精子、臭い♡」